貧酸素水塊速報（2021年）

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター　千葉県農林水産技術会議
神奈川県水産技術センター　内湾底びき網研究会連合会
【協力】　千葉県環境研究センター　東京都環境局
第三管区海上保安本部　（国）国立環境研究所
○ モニタリングポスト（海上保安庁，国土交通省 関東地方整備局）
（今回の速報は″○″の機関の観測データを使用して作成しました）

令和3年9月8日観測結果

貧酸素水塊は浦安沖から市原沖に分布し、船橋沖で底層が無酸素（還元状態）になっていました（図1）。9月3日から船橋港、千葉中央港等で発生した青潮は薄くなりましたが、今後も北寄りの風が断続的に続く予報であるため注意してください。

鉛直縦断面における貧酸素水塊の規模は、6%に縮小しました（図2,3）。

水温は表層22～23℃，底層19～22℃であり、表層水温は8月30日に比べて約6℃低下しています。

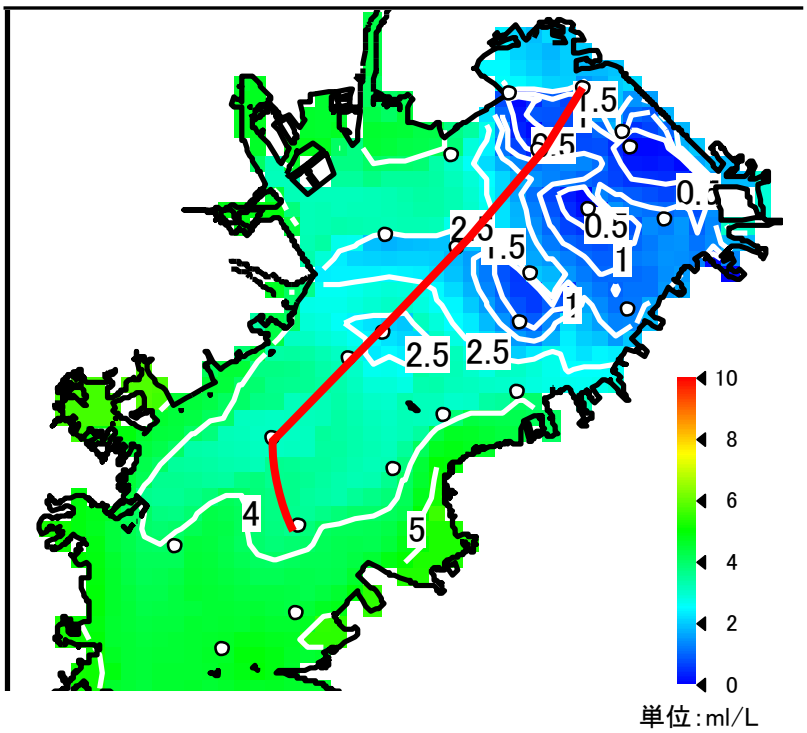

図1　底層の溶存酸素量分布（赤線は縦断ライン）

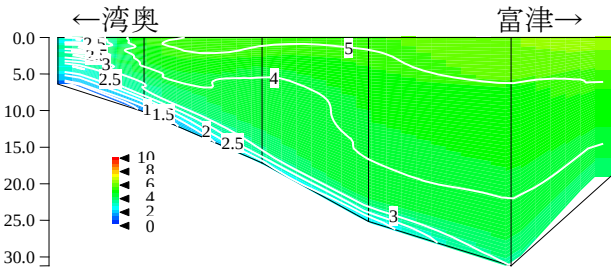

図2　縦断ラインでのDO鉛直分布

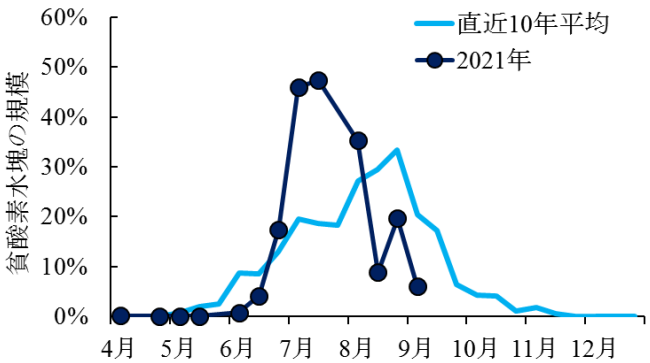

図3　貧酸素水塊の規模
（左図で貧酸素水塊（2.5ml/L以下）が占める割合）

酸素飽和度と溶存酸素量（DO）の目安

酸素飽和度	溶存酸素量	備考
50%	2.5mL/L	貧酸素水塊
30～40%	2.0mL/L	魚類に影響
	1.5mL/L	貝類危険
	1.0mL/L	